

悩み・手さぐり：阪神・淡路大震災ボランティア活動記録：神戸から最も離れた仮設住宅
〔姫路市玉手・白浜・南駅前・御国野仮設住宅〕[Part1] / 姫路こころのケアネットワーク編。
- 発行:姫路：姫路こころのケアネットワーク, 1998.1. 請求記号:震災-7-229,244,342. p27-35

No1 平成7年度 主な事業内容 姫路こころのケアネットワーク

年月日	場所	参加者	目的・事業内容	その他（住民の声、反省）
7.4.29 ～ 9.6.30	新白浜 玉手 南駅前 御国野	全世帯対象	- 戸別訪問で情報伝達、相談、自治会設立、支援、環境整備。 - 社会資源への連絡、連携、ボランティアの育成。 - 遠隔地仮設の実情発信、情報収集、各種調査。 - ボランティア団体の調整及びコーディネイター。	
7.4.29	新白浜	全世帯対象	困った時の連絡先チラシを配付する。 （担当民生委員とボランティア団体の連絡先を知らす）	- 民生委員がパニックになる。 - 十分なフローが出来なかった
5.21	新白浜	住宅内	住宅内の凹凸があり水溜まりの解消を図る。	安全に歩ける。
6.13	新白浜		リサイクル用品を持ち込む（冷蔵庫、洗濯機、掃除機等々）	生活用品が揃う。
6.29	新白浜	全世帯対象	素麺流しを実施する。住民の出会い、地域の役員訪問を促す	手さぐり状態
6.30	新白浜	全世帯対象	バザーとお茶会を実施する。住民の出会いを促進する。	生活用品が揃う。

7.17	新白浜玉手	全世帯対象	自殺防止センターの無料電話相談チラシを各戸に配付する。	相談場所があると喜ばれる。
7.28	新白浜	全世帯対象 (80人)	- 海水浴場で花火大会に警察が招待。地元ボランティアとお手伝い。 - 自治会設立と仮設住宅の存在をPRする。	地域住民に仮設の事を知ってもらう。
7.29	玉手	全世帯対象	- 活動ボランティア共同の夏祭りを実施する。 - 住民意識の高揚と地域住民に参加機会を作る。 - ボランティア団体の連携、ネットワークの促進を図る。	住民共々準備、片付けが出来た。
7.30	新白浜		葬儀の手伝い。	
7.31	新白浜	全世帯対象	- 保健所主催の巡回健康診断の手伝い。(49名受診) 『広報こうべ』の申込み一括申込み。 他の住宅でも後日取りまとめ神戸市広報課に送付依頼する。	- ボランティアの顔を知ってもらう。 - 情報不足の解消を図る。
8.3	新白浜	全世帯対象	- 保健所主催の巡回健康診断の手伝い。(40名受診) - 新白浜より受診者がすくない。	ボランティアの顔を知ってもらう。
8.5	玉手		- ごみ集積場の変更をする。自分たちのことは自分たちで。 - 共同作業の楽しさを知ってもらう。	やっと部屋の窓を開けることが出来た。

年月日	場所	参加者	目的・事業内容	その他（住民の声、反省）
7.8.7		活動ボランティア団体	- 社会福祉協議会にボランティア間の調整を依頼する。 - ボランティア間の活動調整、情報交換が必要である。	社協の動きを促す。
8.13 ～8.20	新白浜玉手	全世帯対象	- 郵便ポストと表札書き、隣近所の名前を覚える。 - 郵便配達の間違いをなくする。	助かった。
8.20	玉手	全世帯対象 (40名)	- 全住民に呼びかけ住民集会で自治会設立を促す。 - 被災者の団結とコミュニティの再構築を図る。 - ふれあいで孤独死防止、助け合いの気持ちを養う。	- 十分なコンタクトが取れないまま設立する。 - 今後が心配である。
8.24	市内四ヶ所	全世帯対象	花の種と活性土を配布する。環境整備をする。	こころのゆとりが見えない。
8.26 ～9.26	市内四ヶ所	全世帯対象	『広報ひめじ』を各戸に配付する。 - 姫路の情報提供をする。早く姫路に馴染んでもらう。	- 見捨てられていない。 - 姫路の事が分かる。
8.29	新白浜玉手	全世帯対象 2か所で開催	- 被災者復興支援会議『いどばた会議』のコーディネートをする - 被災者の要望収集と遠隔地仮設の現状を発信する。 - 自立を促す（住民意識	- 行政不満の解消が図れる。 - 事後報告がなく、不信感を持たれる。

			で行政に要望)	
8.31	新白浜玉手	全世帯対象	市企画室の依頼で台風時の非難訓練のチラシを配付する。	行政の補完的役割??
9.1	新白浜	高齢者	高齢者月間の行事説明をする。行政サービスの促進を図る。	民生委員にお願いする。
9.2	カトリック教会	ボランティア希望者	市内仮設住宅の現状と活動上の注意事項。『説明会』	仲間を募る。
9.3	玉手	地域老人会	地域老人会に仮設住宅の現状と訪問活動について協議。	連携が取れる。
9.4	新白浜玉手		- 台風時のロープ（アンカー取り）補強訓練をする。 - 非常時の人手が心配である。 - ボランティアを当てにしている。	高齢者には負担がありすぎる
9.6 ～10.	新白浜玉手	全世帯対象	- 自治会のお知らせ - その他事務を依頼される。 - 一人歩きされるまでと思うが・・・依存心が強い。	共依存に陥らないようにしたい。
9.8	玉手	仮設住宅内	- 住宅内道路の不陸整正をする。（15m3を住民と共同作業） - 住宅内事故防止を図る（砂利道で転び怪我が多発する）	- 水溜まりがなくなった。 - 安心して歩ける。

年月日	場所	参加者	目的・事業内容	その他（住民の声、反省）
7.9.8 ～8.8.9	新白浜玉手	自治会役員	- 神戸復興新聞が廃刊になるまで配付する。 - 情報提供と積極的な収集を促す。	関心を持つ人が出てくる。
7.9.15	新白浜	全世帯対象 (100人)	- 焼き肉パーティーを実施する。 - 住民とボランティアの連携を図る。 - ボランティア団体の結束と活動をアピールする。 - これまでマスコミ取材を拒否してきたが初めて応じる。活動で知りえたことを発信する事もボランティアの義務。	- 久しぶりに美味しいものを食べた。 - 活動はマスコミによって育てられ支えられていく事を知る
9.16	神戸	ボランティア	- 災害心理支援ネットワークに出席する。 - 小西先生（東京医歯科大学）に加藤先生（県こころのケアセンター）を紹介していただく。以後アドバイスを受ける。	情報は待っていても来ない。自分から取りに行くものの収集するもの。
9.17 ↓ 活動終了迄	電話相談	ボランティア	- 他のボランティア仲間から活動上の相談を受ける。 - 仲間で悩みを盛り回している間に負担が軽くなる。 - 神戸、大阪で知り合った仲間から相談を受けたり、悩みの相談をする。	- ネットワークの素晴らしさを身を持って知る。 - 一人でない事を知る。
		被災者 (200件以上)	- 落ち込みの激しい人に連絡先を教える。 - 戸別訪問が出来ない時、緊急時に相談に応じられる。 - 危機介入の事例も数件あ	- 知らずことで嫌がらせ電話も入る。 - 危機介入ができる。

			る。	
9.22 9.24	玉手 新白浜		• ゴミの不法投棄防止看板設置する。 • 都市によって分別収集の違いがあり当初戸惑いがある。 • こまめに姫路市の収集方法を説明する。 • 住民の自覚が生まれ、ゴミ当番制度が生まれる。	• 悪臭防止ができた。 • 罰則規定看板にクレーム。 • 生ゴミを収集日以外に捨てる人が減少する。
9.24	玉手	全所帯対象 (200人)	• 焼き肉パーティを実施する。 • 住民とボランティアが共同作業する。 • ボランティア団体の結束と活動をアピールする。	• 久しぶりに美味しいものを食べた。
9.27	玉手		• バリケードと速度制限標識を設置する。(環境整備) • 遠隔地で自動車所有者が多く住宅内でほこり・騒音等の自動車公害が生じ解消を図る。	• 住宅内が静かになった。 • 危険が少なくなった。
10.3	市民会館	福祉関係者	• 福祉のまちづくり実践交流会で活動報告する。	• 関心度の低さを知る。

No4 主な事業内容 姫路こころのケアネットワーク

年月日	場所	参加者	目的・事業内容	その他（住民の声、反省）
-----	----	-----	---------	--------------

7.10.4 ↓ 活動終了迄	神戸	仮設NGO全体会	- 震災地で活動するボランティア間の連携と情報収集を図る。 - 自己満足に陥らない。仲間と新しい出会いがある。 - 活動支援が生まれる。	
10.7 10.8	玉手 新白浜	全所帯対象	- ふれあいセンターの開所式に出席する。 - 開所記念イベントに参加する。 - イベント開催に疑問を感じる。 (主役と脇役が逆転して被災者心理を理解しているか疑問である)	- 社協の呼びかけボランティアは単発である。 - ボランティアの人数が多い。
10.10	玉手	ふれあいセンター横	子供用に3×3Mの砂場を作る。	設置するが遊ばない。
10.14	南光町	長田子どもキャンプ	他グループから子どもキャンプ応援依頼があり参加する。	子どものケア実践研修。
10.17 ～12月迄	玉手	子ども対象	- 退行現象の子どもを対象に絵画療法をする。 - 住民に子どもの関わりを知ってもらう。子どもの理解促進。	- 子どものケアの必要性を知る - 親子の関係作りが出来る。
10.27	市内四ヶ所	全所帯対象	復興住宅冊子を各戸に配付する。	行政の補完か??
10.31	玉手		広報掲示板の移動と設置をする。	
11.3	新白浜	子ども対象	子ども遊び隊イベントを実施する。	子どもの笑顔が素晴らしい。

11.4	神戸	被災者支援会議自治会 フォーラム	- 遠隔地仮設の現状を発信する。 - 行政に顔の見える関係作りをする。	オーム返しに遠隔地仮設の現状を発信する。
11.5	玉手	全所帯対象 (200人)	- 仮設支援連絡会と共同イベントをする。 - NGOの仲間に遠隔地仮設を理解していただく。 - 住民と共にイベントを盛り上げる（積極的な参加が見えた）	- 遠方ボランティア（神戸）と親しみができる。 - 住民の連帯が見えた。
11.6	新白浜	高齢者	季節の果物（リンゴ）を媒体に戸別訪問をする。	声がかけやすい。
11.11	新白浜	高齢者	- 高齢者対象にバザーを実施する。 - ゆっくりと品定め。必要な人に必要な物を原則にする。	一般バザーでは遠慮勝ちで欲しいものが手に入らない。
	神戸	神戸市役所と 市民交流会	- 行政側に遠隔地仮設の実情を訴える。 - 行政職員の住宅訪問をお願いする。	遠隔地を忘れないでと訴える

No5 主な事業内容 姫路こころのケアネットワーク

年月日	場所	参加者	目的・事業内容	その他（住民の声、反省）
7.11.12	安富町	玉手 子ども5人	- 県民ふれあいハイキングに参加する。 - 自然環境で伸び伸びと遊ぶ場所提供をする。	子どもらしさを見る。
	新白浜	孤独死	- 活動意義について考えさせられた。 - マスコミ取材で自責の念。落ち込んでしまう。	二度と犠牲者を出さないため早急な対応。

			ボランティアだけの責任か・・・。	先入観・固定観念を持たない。
11.20	玉手	高齢者	- 高齢者対象にバザーを実施する。 - ゆっくりと品定め出来る場所の設定をする。	一般バザーでは遠慮勝ちで欲しいものが手に入らない。
		幼児と母親 高齢者（30人）	- リトミック体操をする。 - 運動不足の解消と仲間作りの促進を図る。 - 多数の子どもが仮設内に入居すると予測し、住宅内を3小学校校区に分割する。結果的には通学者十数名。通学する学校の違いで親子共々コミュニティが生まれない。促進する。	- 知り合いになり親子の交流が生まれる。 - お年寄りも喜んで頂く。対象者を拡大すべきだった。
11.23	玉手	高齢者	高齢者対象にバザーを実施する。	
11.24	神戸	ボランティア 講座講師	市民ボランティア講座で仮設住宅の現状と活動の問題を発信する。	
11.25	新白浜	毎日放送取材	- 遠隔地仮設の現状を発信する。 - 意向調査アンケートを回収する。	神戸で遠隔地仮設の実情を発信しマスコミが取り上げてくれる。
	新白浜玉手	全所帯対象	- 筑波大学大学院生の調査開始。長期調査に協力することになる - 健康チェックとコミュニティの発達度調査をする。	以後大変なストレスが生じる
12.1	神戸	大和公園住宅	住宅訪問と実情調査をする。	起きていることが見え

				ない。
12.2	新白浜	市内四ヶ所 (40人)	- 神戸市職員とふれあいセンターで市民交流会を実施する。 - 交流会のコーディネートをする。 - 糾弾会にならない程度に住民の鬱憤を晴らしてもらう。 - 定期的な訪問活動を約束していただく。	- テレビ局も入り緊迫した雰囲気もあった。 - 交流会ができ活動の節目を迎える。
12.9	神戸 ポートアイランド	新白浜 玉手 防災フォーラム (38名)	- 防災フォーラムに参加する。 - 被災地の復興状況を被災者の目で確認する機会を作る。 - 外出の機会を作る。	- 高齢者は寒さで活動出来なかった。 - 震災後初外出の人がいた。

No6 主な事業内容 姫路こころのケアネットワーク

年月日	場所	参加者	目的・事業内容	その他（住民の声、反省）
7.12.10	玉手	全所帯対象	- 日用雑貨を主にバザーする。 - まだまだ行き届いていない。今後も計画したい。	日用品は飛ぶように捌ける。

12.16	新白浜	全所帯対象 (全戸に配付)	- 餅つき大会(一表)を住民と実施する。 - 大河内ボランティアと共同作業(こころ豊かな人づくり500人委員会の仲間)ネットワークが出来る。 - 季節にあったイベントは人気がある。 - 珍しさで多数の参加があった。 - 野菜バザーも同時開催する。	- 初めて餅つきをした。 - 大根おろし餅は美味しかった - 閉じこもりがちな人の参加があった。
	神戸	いどばた会議	『冬の健康対策』フォーラムに出席する。 - 参加要請があれば積極的に参加し情報を収集する。	仲間が出来る
12.17	玉手	全所帯対象	- 野菜バザーをする。 - 新鮮野菜に人気。白菜漬物が特に好評である。	旬の新鮮野菜を安価に提供。大量に買いあさる人がいる。
12.20 ～12.27	玉手	仮設自治会役員	- 地域諸団体役員と仮設住宅自治会役員の交流会を実施する。 - 地域自治会の理解と今後の協力をお願いする。	被災者心理を理解してもらう
	市内四ヶ所	生活困窮者	- 暖房器具(電気敷布、電気ストーブ、アンカ)100所帯以上に配付する。 - 戸別訪問で対象者を把握しきめ細かい活動をする。 - 電気敷布(50枚)は一番の人気製品である。	- 石油ストーブは危険で防火に繋がった。 - 住民の感謝で元気づけられる - 対象者以外が欲しがる。

12.22	玉手	全所帯対象	・クリスマス会を実施する。 ・子どもの館人形劇。カトリック系中高生の協力でふれあいセンター開所以来の賑わいがあった。 ・子どもの顔が見えてきた。 ・市内の学生（15名）参加で今後につなぎたい。	・時間が少し長かった。 ・自由な振る舞いが見えない。 ・何か周囲の動きが気になる。
12.25	玉手	全所帯対象	・SVAと共同大バザー（4トン車一杯）を実施する。 ・陶器・硝子品が飛ぶように流れていく。	・正月の準備が出来たと喜んでいただく。タイミングが良かった
12.26	新白浜玉手	仮設自治会役員	・西播磨県民局長と市民交流会を実施する。 ・行政機能を理解していただき、自立を促す。 ・感謝の気持ちを外部に伝えてもらう。	・積極的な動きが見えてきた。 ・姫路市は面会を受け入れてくれなかった。

No7 主な事業内容 姫路こころのケアネットワーク

年月日	場所	参加者	目的・事業内容	その他（住民の声、反省）
7.12.29	新白浜		・カレンダーと手帳配付を配付する。	・無かったので嬉しい。
7.12.31 ～1.1	玉手	全所帯対象 (200食)	・年越しそばを実施する。 ・住民参加で年忘れと新年を迎える。 ・神戸にきている全国のボランティア（11名）の協力を得る。 ・調査の結果殆どの住民が仮設住宅で新年を迎えた。	・出れない人には配達する。 ・明るい顔が見えてきた。

8.1.6	新白浜	全所帯対象	- 自治会主催の新年会に出席する。 - 新年の挨拶と人間関係を築き上げていく。	自主運営が軌道に乗る。
1.13 ↓ 1.17	東京	東京ボランティアセンター 世田谷区 国分寺社協ボランティアセン 東京医科歯科大学	- 全国キヤラバン隊に参加し遠隔地仮設の現状とこころのケア活動について発信する。 - 日常活動から開放できた。	活動支援仲間に会え元気が出てくる。
1.25 ～30	市内四ヶ所	希望者 (50人)	- 隙間風対策に布テープを配付する。 - 障害者のみ手伝いをする。	- 建具の歪みも出てくる。 - 全体的に不備が目につく。
1.29	玉手	子ども (7人)	- 子どもの遊び隊を実施する。 - 若いボランティアが子ども連れで参加してくれる。 - 子どもの遊び場を確保する。 - まだまだ子どもらしさが出てこない。萎縮している。	同年配であれば打ち明けが早い。
1.30 2.6	新白浜	希望者 (14名)	- 編み物教室。 - 作り上げる楽しさを味わう。	作り上げた帽子を高齢者に配付する。
2.3	玉手	全所帯対象 (200食分)	- 節分イベント（豚汁・ご飯・豆まき）を実施する。 - 閉じこもりがちな人の外出を促す。 - 参加されない人には戸別訪問をしながら配付する。 - 県栄養士会の協力をえる。 (こころ豊かな人づくり	- 専門家が作ったものは美味しい。 - 早く売り切れてしまう。

			500人の仲間）からネットワークが出来る。	
2.4	玉手	子ども（4人）	• 子どもの遊び隊を実施する。 • 遊び隊が訪問するのを楽しみにしている。 • ボランティア準備室で活発な動きが見える。	

No8 主な事業内容 姫路こころのケアネットワーク

年月日	場所	参加者	目的・事業内容	その他（住民の声、反省）
8.2.10	市川町	こころ豊かな人づくり500人委員会	• 『震災を考える、人のつながり、地域のつながり』シンポジウムでパネラーで出席する。 • 西播磨一円で活動するボランティアに発信する事で今後の活動に生かしてほしい。心の片隅に震災を記憶してほしい。	• 温度差と一年が経過し風化が進んでいる。
2.17	大阪	市民ボランティア実践講座	• 大阪淀川（18条）仮設で活動するボランティア研修会で現状と活動上の問題を話す。	
2.18	青山	校区住民	• 公民館で『震災ボランティアで学ぶ』と題して講演する。	• 関心が薄い。
	玉手	全所帯対象	• 他のボランティアと協力して餅つき大会（1俵）を実施する	

2.19	玉手	市内四ヶ所	• ハウステンボスから一足早く春がやって来る。 • チュウリップ500株の贈呈を受ける。 • 各戸に配付する。 • チュウリップ娘（オランダ女性）の訪問で一時でも明るい話題を提供出来た。	• 花が美しく見えると住民の声が出てきた。
2.20 ↓ 3.4	市内四ヶ所	県委託調査	• 全仮設住宅対象に入居者実態調査をグループで引き受け実施する。 • 調査費を活動資金にと軽い気持ちで引き受けるが、聞き取り調査は厳しい寒さと一部の非協力者で苦勞が耐えなかった。 • 個人情報を知れば知るほどプライバシーの保持に細心の注意をはらう。	• 住民と信頼関係が出来る。 • 個人情報を知る。 • 活動に責任が伴う。 • 仲間との絆が出来る。 • 辛い調査であった。
2.24	大阪淀川18条仮設	ボランティア2名参加	• イベント（NGO連絡会事業）手伝いをする。 • 東の遠隔地仮設のリサーチを兼ねて支援方法を模索する。 • ボランティア間のネットワークが誕生する。	• 現地確認ができた。
2.27	新白浜玉手	子ども	• 民芸品のお雛さんをプレゼント（20体）する。 • 地震で失ったが・・・有り難いと感謝の気持ちが伝わる。	• 子どものお祝いが出来る。
3.2	大阪YWCA	シンポジウム	• 『今ボランティアに求められているもの』で発信する。	• 熱心な聴衆に感激する。

3.3	玉手	全所帯対象 (200食)	• お雛祭り。豆まき。ちらし寿司。おはぎ。バザー。ハモニカ演奏。 • 豪華な御馳走で大変な振る舞いができた。	• イベント意義を考えなければならない。
-----	----	-----------------	---	--

No9 主な事業内容 姫路こころのケアネットワーク

年月日	場所	参加者	目的・事業内容	その他（住民の声、反省）
8.3.10	玉手 新白浜	全所帯対象 (35名) (30名)	• ぽかぽか体操（春よこい）イベントを実施する。 • 健美操の講師を招き笑いとリズムに乗って体とところをほぐす。 • 寒さで外出出来ない人を呼び出し一足早く春の訪れを告げる • 無理ない体操で身体をほぐす。	• 焚き出しでなかったら参加者が少ない。 • 物で参加者を釣ろうとしているがこれでいいのか？
8.3.15 ↓ 活動終了迄 廃刊に成る まで	市内四ヶ所	全所帯対象	• すたーと長田『ウイークリーニーズ』情報誌配付をする。 • 当初は長田区出身者（住民の30%以上）に配付していたが6月以後は全戸配付する。 • わかりやすい情報誌で神戸の匂いがすると喜んでいただく。 • 紙面を借りてその時その時の思	• 長田区出身者に配付していたが何故全住民に配付しないのかとクレームが付き全戸配付する。結果的にはこれで良かった。

			いを発信する。 ・戸別訪問の媒体になる。 ・月2回の発刊ですたーと長田ボランティアに感謝する。	
3.17	玉手 新白浜	全所帯対象 (25名) (26名)	・南京玉すだれ(10名)イベントを実施する。 ・参加者の積極的な参加(玉すだれ)でイベントが盛り上がる ・住民の積極的な動きが目につく。	・イベント屋になっている。 ・本来の活動を忘れかけている ・地道な活動が必要である。
3.31	玉手 新白浜 南駅前	文通相手 (12名)	・名古屋南小学校『ふれあい姫路』戸別訪問をする。 ・文通相手は再開を楽しみにする。 ・顔を撫ぜるように触り感激を味わっておられた。 ・明日の希望がわくと感謝される。	・対面時間が少ない。 ・無理な行程であった。

No10 平成8年度 主な事業内容 姫路こころのケアネットワーク

年月日	場所	参加者	目的・事業内容	その他(住民の声、反省)
-----	----	-----	---------	--------------

8.4.6	長田区 菅原市場	玉手. 新白浜 希望住民（42名）	- 花祭りに参加する。（菅原市場周辺） - 長田区出身者が参加する。 - 震災地の復興を見学する。 - ボランティア間の連携を図る。	- 震災後、初めて長田に帰れた - 復興は、まだまだ。 - 懐かしい。 - 感無量。
4.14	玉手	全所帯対象 （35名）	- 子ども対象に手品・紙人形イベントをする。 - 屋外で笑いを誘う。 - 子どもの積極的な参加を促す。 - 紙人形ボランティアに仮設の実情を発信する。	- 大声で笑えた。 - 笑うことでストレスが解消できた。
4.12	新白浜	ボランティア （20名）	- 県こころのケアセンター加藤医師を招いて研修会。 - 震災後のPTSDと活動上の注意について勉強する。 - ボランティアの質の向上を図る。 - 活動上の情報収集の大切さを知る。	- 真剣に学ぶ。 - 他グループの参加がなかった。
4.28	新白浜	全世帯対象	- コンサート（11名）と歌の会。 - 童謡.唱歌の歌える場所を設定する。 - 住民間の連携を図る。	- 昔を思い出して涙ぐまれた人が多数いた。 - 大声で歌えストレスが解消。
4.29	新白浜 玉手	ボランティア	- ふれあいセンター前に鯉のぼりを建て季節感を味わう。 5月の風に乗って希望と景気付けをする。	- 子どもの関心がない。 - 県民局長の手伝いがあった。

5.4	神戸 SVA	ボランティア (60名)	連休を利用してボランティア活動している若者に被災地の現状と活動に燃え尽きないためについて講演。	若者のエネルギーに圧倒される。
5.11	神戸 鷹取中学校	シンポジウム ボランティア (8名)	- 戸別訪問ボランティアが一同に集まり、活動検証と今後の展望について話し合う。 - 活動内容を発信し仲間を募る。	地道な活動を評価しネットワークの連携をはかる。
5.15	玉手	ふれあいセンター役員	- センター開所以来自治会運営にご苦労された役員を慰労する - 活動の評価し次につなぐ。	住民同士の感謝の気持ちがない。
5.18 ～21	新白浜 南駅前	全世帯対象	- 意向調査を実施する。 - 切り餅を配付（12世帯）。	何時も協力的である。

No11 主な事業内容 姫路こころのケアネットワーク

年月日	場所	参加者	目的・事業内容	その他（住民の声、反省）
8.5.25	自治福祉会館	ボランティア (14名)	- ボランティア研修（人間関係と理解）（大阪YWCA金講師） - ボランティアの質向上を図る。	- ボランティアの結束が出来た - 親睦を図る。
6.6	新白浜 玉手	全世帯対象 (40名)	- 被災者復興支援会議（いどばた会議）と住民交流会。 - 住民の声を聞き行政に提言していただく。	- 一方通行かも知れない。 - 聴きっぱなしである。
6.10	玉手	全世帯対象 (20名)	- コンサート（室内楽）をする。 - 童謡と文部省唱歌を大声	- 参加者が少ない。 - 昔を思い出し涙

			で歌いストレス解消を図る。	が出た。
6.11	新白浜 玉手	全世帯対象 (70名)	・ オルセ美術館展としあわせの村（温泉）へ招待する。 ・ 感性と遠隔地仮設住宅の交流会（りんくうタウン仮設住宅） ・ 情報交換とゆっくりお風呂に入るところも体もリフレッシュ。	・ 避難所で過ごした人と久しぶりに会えた。 ・ 今後の情報交換を約束する。
6.22	神戸YWCA	ボランティア	・ 研修会で仮設住宅の現状と今後の見通しを発信。	
6.23	姫路青年会議所	JC会員 (11名)	・ 『震災地から見た姫路』について発信する。 ・ 震災認識と今後の活動を啓蒙する。	・ 震災について関心度が低い。 ・ 風化されている。
6.29	加古川福祉会館	播磨の仮設住宅住民	・ 行政（神戸市）と被災住民交流会。 ・ 交流会の司会を担当する。 ・ 住民の思い・悩みを発信して今後の政策に反映して頂く。	・ 行政の顔を見ると平素の意見が出てこない。
7.6	神戸	ボランティア	・ 市民実践ボランティア講座講師。ボランティアの心構え。	・ 被災地では参加者が少ない。
7.7 ～30	新白浜 玉手 御国野 南駅前	全世帯対象	・ 市内四ヶ所の仮設住宅と雇用促進事業団住宅で復興住宅説明会を実施する。 ・ 復興住宅応募への機運を盛り上げる。 ・ 行政の説明会を誘導する。募集概要版を各戸に配付する。	・ 質問事項は行政に問い合わせ各戸に回答する。 ・ 関心度が高く驚く。 ・ 住民ニーズに添った活動。

7.13 ～14	東京	ボランティア	『コアラの会』支援仲間に震災地の現状を発信する。 - 災害心理支援ネットワークで活動報告する。（日赤本社） 『こころのサポート市民の会』で震災地の現状を発信する。 - 時間経過と共に風化されている。忘れないでと活動の中で知りえた物を発信する。	- 東京では震災は過去の事。 - 新聞報道も皆無である。 - 風化されながらも感心のある人に出会い感激する。
7.15	大阪	ボランティア	東京生活者ネットワーク（11名）に活動報告する。	市民参加の防災計画作成中。

No12 主な事業内容 姫路こころのケアネットワーク

年月日	場所	参加者	目的・事業内容	その他（住民の声、反省）
8.7.20	玉手	全世帯対象	日用雑貨品のバザーを実施する。	無料配付は殺到する。
7.20 ～26	玉手 新白浜	全世帯対象	- 健康度調査を実施する。 - 活動の参考にする。	協力的である。
7.25	西宮	ボランティア	災害心理支援ネットワークで活動報告する（開学千刈セミナー）	
7.26 ～31	新白浜	ボランティア	- 県社会福祉協議会のサマボランティアを引き受ける。 - ボランティアを育て育成する。	サマーボランティア終了後、会員になり活動に参加する。
7.27	新白浜	全世帯対象	日用雑貨品のバザーを実施する。	

			• 平等に行き渡るよう配慮する。	
7.28 ～30	市内四ヶ所の 仮設住宅	全世帯対象	• 支援者から救援物資が届く（無添加ジャム・お菓子） • 戸別訪問しながら媒体にする。	• 好き嫌いを言われる。
7.30	新白浜	全世帯対象	• 神戸市主催の復興住宅説明会の手伝いをする。	• 34世帯が参加。関心が高い。
7.31	新白浜	全世帯対象	• 支援者からの野菜を配付する。	• 新鮮さが売り物である。
8.1	神戸 姫路	高羽、西神中央 西多聞、姫路	• 名古屋植田南小学校『仮設住宅ふれあい』のコーディネートする • 文通相手を中心にセンターと家庭でふれあいをする。 • 世代間交流と体感学習を実践する。	• 文通相手と直接会えて嬉しい • 楽しい思い出が出来た。 • 意外に元気そうだった。
8.3	玉手	全世帯対象	• 神戸市主催の復興住宅説明会の手伝いをする。 • 支援者からの野菜を配付する。	• 56世帯が参加。関心が高い。
8.9 ～11	小田原	子ども	• 神奈川県小田原へ子どもとキャンプに参加する。 • 両親のいない高校生を引率する。	• 初めて新幹線に乗れた。 • 仲間に会えて楽しかった。
8.11	玉手	全世帯対象 (150人)	• 夏祭り（生ビール、コンサート）を実施する。 • 生ビールで暑さをぶっ飛ばせ（納	• 一人2杯までとしていたが、ビールの勢いでトラブルが3件発生する。 • 社会問題になってい

			涼）。 ・他ボランティアとの連携（長崎ボランティア）。 ・住民間のコミュニティを図る。 ・ボランティアと住民のコミュニティを図る。	るアルコールを出すことは控えなければならない。（猛反省）
--	--	--	--	------------------------------

No13 主な事業内容 姫路こころのケアネットワーク

年月日	場所	参加者	目的・事業内容	その他（住民の声、反省）
8.8.18	大手前公園	姫路市民	- 青年会議所主催の『集まろう姫路』イベントに参加する。 - ボランティア活動を市民に啓蒙する。 - 震災地の現状を発信する。（写真・瓦礫の展示） - バザーの実施。（地元仮設NGO連絡会の協力）	- 反応のなさにガッカリ。 - 防災啓蒙についてどのような方法があるか再考したい。
8.18～20	市内四ヶ所の仮設住宅	全世帯対象	- 夏バテ防止チラシと清涼飲料水（2本）を配付する。 - 夏風邪、食欲減退防止を啓蒙する。 - チラシを媒体に顔色・食事状態を確認し健康度を調査する。	- 年寄りには清涼飲料水を飲まない人がいる。 - きめ細かい関わり（一律には行かない）
8.29	新白浜	全世帯対象	救援物資を配付する。（石鹸・コーヒー・健康食品）	

8.29 ～30	新白浜 玉手	対象者 (80人)	健康度調査を実施する。	何時も同じこととして何になる
9.8	市内 高岡市民センター	民生児童委員 (70名)	『震災ボランティアから学ぶこと』で講演する。 - 仮設で起きていることは、将来地域で起きることである。 - 実践場所である。 - 日常活動でどの様に生かしていくか。	- プライバシーがあり具体的に話が出来なかった。 - 物事には関心を持ってもらえるが次の展開が期待出来ない。
9.10	御国野	全世帯対象	文化教室（タオルを使って小物入れを作る）	小物入れが出来た。
9.15	玉手	全世帯対象	- 桜（女性）ライオンズと共同でバザーを実施する。 - ライオンズに仮設の実情を認識してもらう。	何時ものパターンで買いあさる人が目につく。
9.19	御国野 南駅前	全世帯対象 (20人)	- 健康ランドに招待。（朝日新聞厚生文化事業団助成事業） - 小規模団地を対象にお風呂と食事で健康増進を図る。 - 住民間のコミュニティを図る。	91才の最高齢者と人工透析患者が参加してくれる。 - 外出の促進が図れた。
9.20	新白浜玉手	全世帯対象	花の種を配付する。	花の咲くのが待ち遠しい。
9.21	上郡高校	生徒有志 (50名)	- ボランティア活動の事前学習を実施する。 - ボランティアの心構えと戸別訪問について。	次につなぎたい。

9.27	南駅前	全世帯対象 (12世帯)	支援者から届いた季節の果物『なし』を配付する。	旬の物有り難い。
------	-----	-----------------	---	--

No14 主な事業内容 姫路こころのケアネットワーク

年月日	場所	参加者	目的・事業内容	その他（住民の声、反省）
8.9.29	竜野 (新白浜)	全世帯対象 (20名)	- 芋掘りと法話（生きるとは） - 自然に親しみ、楽しい思い出作りをする。 - 自然の恵みに親しむ。	- 初めて芋掘りをした。 - 芋ずる式にほりあげた。
10.6	玉手	全世帯対象 (100人)	- 焼き肉パーティーを実施する。 - 夏バテ回復と住民間のコミュニティを図る。	住民の積極的な関わりがあった
10.12 ～13	新白浜 玉手	ボランティア	- ボランティア対象にワークショップを実施する。 - 藤森先生現地視察。 - ボランティアのケアと質の向上を図る。	他グループに参加を呼びかけるが反応がない。
10.13	玉手	全世帯対象	選挙啓蒙のチラシを配付する。（不在者投票案内チラシ）	行政の補完をしている？
10.20	新白浜	全世帯対象 (50人)	- 焼き肉パーティーとバザーを実施する。 - 夏バテ回復と住民間のコミュニティを図る。	自立が始まりイベント参加者が減少している。
10.22	南駅前 御国野	全世帯対象	支援者から届いた『サツマイモ』を配付する。	手抜きして責任者に渡すが、戸別訪問で渡すべきだった

			文化教室（作る喜び、出来る喜び、集う喜び）を味わう。	た。
10.26	南駅前	全世帯対象	支援者から届いた野菜を配付する。	
10.27	泉佐野市	一般市民	遠隔地仮設で何が起きているか講演（りんくうタウン仮設）	
10.30	西播磨県民局		こころ豊かな人作り情報誌の取材。	
11.2	玉手	全世帯対象 (生徒37名)	- 上郡高校現地学習コーディネート - 戸別訪問とマスコットプレゼント。	無難に終わった。
11.8	大阪	ボランティア	市民ボランティア実践講座、被災地の現状を説明する。	
11.9	神戸		FMわいわいに出演。遠隔地仮設の現状を発信する。	楽しかった。
11.10	竜野 (玉手)	全世帯対象 (18人)	- 芋掘りと法話（こころ豊かな人作り運動仲間の企画）。 - 自然に親しみ、楽しい思い出を作ってほしい。	境界線が理解できず隣の畑まで手を出す。
11.11	南駅前	全世帯対象	支援者から届いた長野リンゴと花を配付する。	

No15 主な事業内容 姫路こころのケアネットワーク

年月日	場所	参加者	目的・事業内容	その他（住民の声、反省）
-----	----	-----	---------	--------------

8.11.12	市内四ヶ所	ふれあいセンター	• ふれあいセンターに観葉植物を配付する。 • 温かい雰囲気を作るため。（殺風景）	• 温かさを演出できた。 • 和やかになった。
11.16	神戸教育会館	ボランティア（80名）	• ユニバーサル財団の戸別訪問ボランティア講座で戸別訪問ボランティアの心構えについて講演。	• シリーズ講座で参加者の熱心さに感激する。
11.24	玉手	全所帯対象	• バザー（米・コーヒーマ・花・野菜）を実施する。	• 飛ぶように捌ける。
11.26	市内四ヶ所	全所帯対象	• 支援者から届いた北海道男爵及び野路菊の鉢植えを配付する。	• ふかして食べたい。
11.27～29	奥尻島	ボランティア	• 復興状況と災害後のメンタルケアについてリサーチする。	• 復興速度の速さに驚く。
12.7	新白浜	全所帯対象（50人）	• 餅つき大会（一俵を現地でつき上げる）を実施する。 • 季節感を味わってもらう。 • つきあげた餅を各戸に配付する。	• 住民の積極的な参加があった
12.15	玉手	全所帯対象（120名）	• 上記と同じ。 • 野菜販売とシチューを高校生が作る。 • 高校生はシチューを媒体に戸別訪問をする。 • NHK取材（ボランティアのこころのケアについて）	• 高校生と共同でイベントをすると熱気がある。しかし、何にが起きるか心配することもある。

12.21	玉手	全所帯対象 (50人)	- 子どもとお年寄りを対象にクリスマス会を実施する。 - 子どもとの関わりを持つ。世代間交流を促進する。 - 市内四カ所の子どもたちにもプレゼントする。	子どもらしさが見えた。
12.25	御国野	全所帯対象	支援者から届いたジャガイモとカーペットを配付する	台所の足元に利用する。
12.29	玉手	全所帯対象 (150食分)	- 早めの年越しそばを振る舞う。 - 年忘れと新たな気持ちで新年を迎えてほしい。	- あっという間に捌ける。 - 季節物は人気が良い。
9.1.19	神戸 ポートアイランド	全所帯対象 (60人) ボランティア (11人)	- 国際防災フォーラムに招待する。 - 市内巡回バスで被災地の復興状況を自分の目で確かめる。 - ボランティアは、ブースで『どこまでやるの・V』活動発表とワークショップを実施する。 - ボランティアの連携と質の向上を図る。	- 寒かった。 - 楽しかった。

No16 主な事業内容 姫路こころのケアネットワーク

年月日	場所	参加者	目的・事業内容	その他（住民の声、反省）
9.2.1	神戸 復興住宅	全所帯対象 (20名) 玉手	復興住宅見学会（復興住宅一元化募集に先駆け住民の意識を高める）県民ネット助成金事業で実施する。	建設場所は確認できたが、室内の見学がしたかった。

			• 場所の確認と仮設内で申し込みの機運を盛り上げる。	
2.2 ～10	市内四カ所	全所帯対象	• 一元化募集の手引き書を各戸に配付する。 • 恒久住宅入居促進を図る。	• 分かりやすい手引き書有り難い。
2.9	新白浜 玉手	対象者 (60人)	• バレンタインデーのチョコにメッセージをつけて戸別訪問。 • きめ細かい関わりを築き上げていく。	• 思っても見なかった物有り難い。
2.18	新白浜	全所帯対象	• ふれあいセンターで『ぜんざい』とふれあいを実施する。 • 寒さを『ぶっ飛ばせ』で温かいイベントを計画する。	• ころまで温かくなった。
2.22 ～23	新白浜 玉手 南駅前	全所帯対象	• 名古屋南小学校『ふれあい姫路』交流会コーディネート。 • 『声の郵便局』の文通相手と住民の世代間交流を図る。 • センターで宿泊しながら深まりのあるふれあいを促進する。	• 孫に会え嬉しい。 • 一部住民の反感をかう。 • 難しさを実感する。
2.27	神戸 (東灘区)	ボランティア (45名)	• コープともしび財団の中堅ボランティア講座でフロアアップについて講演する。	• ふりかえり文書を頂き考えさせられる事が多々ある。

2.28	新白浜	全所帯対象 (21名)	- アルコール依存症について勉強会を実施する(県、麻生先生) - 酒害の怖さを住民に理解してもらう。 - 依存症患者に対しての対応と理解を高める。	- 本来は保健所が実施すべき事相談を持ちかけるが?? - 行政の補完をしている??
3.1 ~4	市内四カ所の 仮設住宅	全所帯対象	- パンジー、ガーベラ等の花を配付する。 - 子どもに雛人形をプレゼントする。	初節句で嬉しい。
3.2	神戸 復興住宅	全所帯対象 (40名) 玉手、新白浜	- 復興住宅見学会(復興住宅一元化募集中で住民意識の高揚)県民ネット助成事業として実施する。 - 応募場所の確認と住宅内で住宅申し込みの機運を盛り上げる	91才最高齢者も参加する。 - 車中で応募ヶ所を決定したの弾んだ声が聞こえる。
3.19	泉佐野	ボランティア	- 活動撤退のボランティア対象に勉強会。 - 撤退する勇気、タイミング、罪悪感、評価、地域ボランティア等々について講演する。	タイミングの良さを肌で感じる。
3.21	南駅前	全所帯対象	花見の会を実施する。	住民間の連携を図る。

No17 主な事業内容 姫路こころのケアネットワーク

年月日	場所	参加者	目的・事業内容	その他(住民の声、反省)
9.3.22	神戸	ボランティア	『生きがい・うるおい』フォーラムに参加する(いどばた会議)	

3.23	玉手	全世帯対象	• ぽかぽか体操とお茶会を実施する。	• こころも体もリラックスした
3.27	姫路		• 支援者（東灘区で被災）の個展のお手伝い。	• 収益金を寄付してもらう。
3.29	姫路 自治福祉会館	ボランティア (15名)	• 講師を招きワークショップと親睦会を実施する。 • ボランティアのケアと質の向上を図る。	• 学生に一区切りさせる。

No18 平成9年度 主な事業内容 姫路こころのケアネットワーク

年月日	場所	参加者	目的・事業内容	その他（住民の声、反省）
9.4.5	網干 (新白浜)	全世帯対象 (9名)	• 朝日オークハイキングに参加する。 • 大覚寺住職の法話と龍門寺の大茶会。 • 思い出作り。	• 姫路の良さを味わう。
4.25	市内 四カ所	全世帯対象	• パンジー（400株）を各仮設に配付する。	• 住宅入り口に植え込む。
5.3	市内 四カ所	対象家族 20人	• 子どもの日プレゼントを配付する。	• 思い出が出来た。
5.11	市内 四カ所	全世帯対象	• 母の日プレゼント（カーネーション）を配付する。 • 戸別訪問の媒体にする。	• 嬉しい。有り難う。本当に有り難う。
5.17	南駅前	全世帯対象	• 支援者から届いた野菜を配付する。	• 何時も有り難い。
5.18	神戸	ボランティア (1名)	• 被災者復興支援会議のフォーラムに出席する。 • 依頼があれば常に出て行き現状を伝えたい。	• 何時も機会を作っていただき感謝している。

5.20	姫路自治福祉会館	ボランティア (9名)	- 被災者復興支援会議委員と現地交流会も持つ。 - 日々の活動のなかで知り得たものを発信する。 - 地道な活動を評価され仲間一同感謝する。	- 聞き取り調査形式になる。 - ケアもしてほしかった。
5.25	赤穂	対象家族 (22名)	- 赤穂高山牧場でバーベキューと海浜公園遊園地へ招待する。 - 自然の中で伸び伸び過ごす。 - 思い出を作る。	自由な行動ができ楽しい一日であった。
5.30	姫路自治福祉会館	カウンセリング研究会	『震災ボランティアのこころのケア』について講演する。 - 勉強会の仲間に伝える。 - 枠組みから半歩はみ出す気持ちで活動できない??。	
6.17	神戸		復興住宅入居審査に付き添う (91才の男性)	
6.20	姫路広畑区 才	家中県営住宅 復興住宅 (一部)	- 市内復興住宅の現地調査。 - 活動場所の開拓をする。	被災者が地域に馴染んでいない。
6.26	南駅前	全世帯対象	お別れ会（住宅責任者の退去に感謝して）を実施する。	和やかな雰囲気であった。
6.29	新白浜	全世帯対象 (30人)	- ぽかぽか体操とお茶会を実施する。 - こころと身体をほぐす。 - 県広報課『フラッシュひょうご』の収録。団体紹介。	久しぶりのイベントで歓迎してくれる。